

令和2年度 岐阜県立関有知高等学校

第3回 学校運営協議会 会議実施報告書

1 会議の名称 令和2年度 岐阜県立関有知高等学校 第3回学校運営協議会（書面開催）

2 会議の構成 学校運営協議会委員

丹羽章	中部学院大学 事務局長
森茂夫	関市立下有知中学校 校長
小島祐治	関青年会議所 理事長
平田尚	しもうちふれあいまちづくり協議会 委員
山田あつ子	特別養護老人ホーム ハートフル 施設長
今井典子	下有知保育園 主任保育士
北村隆幸	せき・まちづくりNPOぶうめらん 代表理事
佐藤豊	関有知高等学校PTA 会長
学校側	
谷口正明	校長
森里志	事務長
野々村健	教頭
大野広行	総務部長
名和憲一	教務主任
福山美苗	生徒指導部長
原和幸	進路指導部長
水阪文恵	生活福祉科主任
横山玄斗	記録

3 会議の目的

- ・学校運営の基本方針を説明して、意見を伺う。
- ・学校運営協議会委員と学校の現状・課題等を共有し、ご意見をいただくとともに、学校運営の基本方針を承認していただく。

4 会議の開催

書面開催 令和3年2月10日（金）資料発送

- ・学校運営協議会委員8名に第3回学校運営協議会資料を発送
- ・後日委員の方々より、ご感想・ご意見を聴取

5 会議の概要

- ・令和2年度の取組の成果と課題について
- ・令和3年度に向けて

6 委員の方々からのご感想・ご意見等

【総務部】

感想・意見1

- ・まず、他の学校にはない校務分掌「総務部」を新設されたことを評価したい。総務部として、本校の教育目標である「生徒一人一人の生きる力を育む、個々の能力や長所を伸ばし、優れた想像力と豊かな社会性を持った、逞しく実践力のある心温かな人間育成を目指す」の具現化に向けた取組を、保護者や地域住民と共に実践していただきたい。

感想・意見2

- ・学校評価アンケートの数値の低下は、コロナ禍で活動が制限されたため仕方がない。その中でもオンラインで開催された「関有知ジモト大学」は、生徒にとって貴重な経験になったと思う。参加者を増やすために、事前に生徒が社会のどのようなことに興味があるかを把握し、講師を選定するとよいのではないかと。継続していくことが大切だと思うので、今後も検討を重ねてより良い場としていただきたい。

感想・意見3

- ・「関有知ジモト大学」は魅力的な企画だと思う。どのテーマも興味の持てそうなもので、参加者が少ないのが不思議なくらいである。気軽に参加できる申し込み方法など工夫するとよい。
- ・本が好きな生徒は多いと思うので、本に係るイベントを開催し、本に触れる機会を増やすことも必要だと思う。

感想・意見4

- ・第2回にお話しした「関有知ジモト大学」について、早々取り組んでいただき、感謝している。学校現場において、このスピードでの対応は大変画期的なことだと感服している。参加生徒が少なかったということだが、計3回で50人近くが参加してくれて大変良かった。
- ・個人的に本校には「地域の生活と仕事を守る人材を育てる」という姿を目指してほしい。地域の方々とのつながりが当たり前となっているので、「校内居場所カフェ」をまず1年間試していただくと、その次に広がると感じた。

感想・意見5

- ・「関有知ジモト大学」の活動を期待している。

感想・意見6

- ・コロナ禍でいろいろな取組を実施するまでに、大変な努力と苦労があったと思うが、そんな中でも学校見学会や「関有知ジモト大学」が行われたことを素晴らしく思う。今年度の反省から来年度はさらに生徒たちが参加してみたいと思える魅力あるものになることを祈っている。
- ・「居場所カフェ」の実現を望んでいる。生徒たちが自主的に考えたり学べる場として、カフェにも図書コーナーを設置したり、学校紹介や授業紹介、部活動紹介などのDVDを再生したりするのもよい。地域の方にも学校を知ってもらい、生徒たちの活動に生かされるとよい。

【教務部】

感想・意見1

- ・前回、ICT機器を活用した素晴らしい授業を参観させていただいた。ICTの活用はもちろん大切だが、活用自体が目的ではなく、生徒にとって「以前の授業形態」よりも理解しやすく、学力の定着に寄与する授業になっているかを常に検証してほしい。

感想・意見2

- ・校内組織の改編により、今回の社会情勢の変化にも機動的に対応できたこと、一丸となって生徒のことを考え、教育に当たる教職員の姿勢を大変嬉しく思う。学習機会の確保、感染予防対策、スケジュールの見直し等のバランスをとることは大変難しいと思うが、今後も起こりうる事態として素早く対応できるよう、引き続きお願いしたい。
- ・コロナの影響により、生徒が学習への意欲を失う傾向があるとのことだが、原因は把握できているのか。大切な3年間なので、このような時期でも学習意欲を継続できる環境を整えていただきたい。

感想・意見3

- ・地元への就職が6割というのは高い割合だと思う。

感想・意見4

- ・新しい教育課程編成に向けた基本方針を拝見した。3年間で身に付ける力の中で「基礎学力の向上」はとても大切な役割だと感じている。学び直しから丁寧にやってもらえるとありがたい。
- ・コミュニケーション能力の育成、社会貢献という面では、小さなことでも行動を起こし、評価さ

れたり感謝されたりするという小さな成功体験の積み重ねが大切である。学校推薦型・総合型選抜においても、実績が大事だと思うので、ぜひ様々な地域行事等への参加を促していただけると嬉しい。

感想・意見6

- ・以前、オンライン授業配信の様子を見せて頂き、しっかりと素早い対応がされていると感じた。教職員の知識量や意欲の高さを感じた。
- ・令和4年度から新しい学習指導要領に変わるということだが、本校の生徒たちが意欲的に学校に通えるような学びを進めてほしいと思う。

【生徒指導】

感想・意見1

- ・以前に比べ、生徒が大変穏やかで落ち着いており、日頃からの生徒指導の賜物だと思う。現在の状態ならば、従来の生徒指導方針を少し見直して、生徒たちが自ら考え、長い目で生徒の心に訴える生徒指導を模索していただきたいと思う。

感想・意見2

- ・「心のアンケート」を年11回も実施し、定期的に生徒の心の変化を確認する機会があることは大変良い。多くの行事が中止となる中、生徒が自分たちで考え出来ることを行った一年であり、困難に立ち向かっていく姿勢を頼もしく感じた。社会に出ても強く生きられる生徒の育成を今後ともよろしく願いたい。

感想・意見3

- ・「心のアンケート」の実施やスクールカウンセラーの活用は必要な取組だと思う。フォローの必要な生徒が一定数いるようだが、事案への学校側の対応とその効果について、可能であれば教えていただきたい。

感想・意見4

- ・部活動の躍進が、他校との差別化や学校の魅力につながると思う。第2、第3のライフル射撃部やダンス部、将棋同好会のような、好成績を狙える部活動を意識的に増やすとよい。ボルダリングや馬術、eスポーツなどの新しい部活動も検討してはどうか。
- ・関市からの委託を受けて関市社会福祉協議会が実施している「関市丸ごと支援センター」の方と接する機会があるが、大人から困窮世帯とつながることが難しい場合もあり、子どもから発見できればという話があった。生活困窮世帯の生徒支援は学校ではなく、福祉の分野であると思うが、生徒指導部でそういった困窮生徒を支援する取組があれば、報告していただきたい。

感想・意見6

- ・今年度はスタートから不安定な状況で、生徒たちのモチベーションを保つことが難しかったと思う。そんな中でも、教職員が生徒一人一人を温かく見守り、対応されたおかげで、生徒は安心して学校に通えたと思う。
- ・3年度に向けての方針にある『自己指導能力』は大切なことだと思う。自分に自信を持つことも大切だが、失敗してもそこから這い上がれる力、立ち直れる強い気持ちも育てられるとよい。
- ・社会に出てからも、どんなことにも粘り強く、逞しく挑戦し続ける本校の生徒であってほしい。

【進路指導部】

感想・意見1

- ・1年生から適切に進路指導がされており、高く評価できる。これまで以上に市役所や企業の方々、大学や専門学校の教職員など外部の人材を活用し、より充実した進路指導がされることを期待している。

感想・意見2

- ・1年生の段階から社会に出る準備をしっかりしていると感じる。オンラインでの企業面接等、様々な場面に対応できるマナーを身に付けられるよう、引き続き指導をお願いしたい。

感想・意見4

- ・企業の説明を聞くだけでは、理解が深まらない部分もあり、コロナ禍の状況では難しいが、職場体験は最も大切だと思う。単なる体験ではなく、職場から仕事上の課題を与えてもらい、それに対して取り組むような課題解決型職場体験が高校生のキャリアを考える上でとても効果的だと思う。

感想・意見6

- ・卒業後の進路が進学や就職と様々で、教職員は多方面に渡る指導をしなくてはならない中、「進路指導マップ」という具体化されたものがあるため分かりやすく、生徒は将来の自分を探し出せるのではないかと感じた。
- ・学校見学をした際、進路指導室が明るく、入りやすいと感じた。
- ・進路については、生徒自身が迷いや悩みを持っていると思うので、少しでも明るい雰囲気できれいに相談できる場を提供できるとよい。
- ・設置が計画されている「居場所カフェ」も、学校、生徒、地域が情報を共有できる場となるとよい。

【家庭教育部】

感想・意見1

- ・家庭教育部が本校の最大の特色だと思う。生徒が、ボランティア活動等の座学では味わえない様々な体験をたくさんすることで、より豊かな高校生活を送ることができるようにしてほしい。

感想・意見2

- ・本校では資格取得に力を入れていることが改めてわかった。対面で行うボランティアの多くが中止となったことは残念だが、ビデオメッセージ等の動画でも気持ちを伝えることができるので、双方向のやり取りが失われないように工夫を凝らし、これからも続けていただきたい。

感想・意見4

- ・大変素晴らしい活動をされていると思うので、来年度も引き続きお願いしたい。

感想・意見5

- ・多くの外部講師による講習会を実施されたとのことだが、生徒にとって重要な知識を得る機会なので大変良かった。
- ・校内での学びが中心となりがちでコロナ禍だが、地域活動の一環で福祉系関連のボランティア活動受入を何とか実現できないか検討したいと考えている。来年度の課題になるが、その際はよろしくをお願いしたい。

感想・意見6

- ・例年、福祉科の生徒が保育園の玄関壁面を四季に合わせて貼り替えてくれていたが、今年度はそういった活動も十分にできず、苦勞されたと思う。実習においても、直接の交流ができない中、どうにか生徒の意欲を伝えたいということで、DVD制作に取り組まれた。園児は生徒が発信してくれる説明や作り方を一生懸命見ながら制作活動に取り組み、出来上がったものを喜んで持ち帰っていた。
- ・コロナ禍でありながらも学びや経験を大切にしたいと取り組まれた活動報告を見せて頂き、教職員の尽力と生徒の意欲の高さが伝わってきた。

【その他】

感想・意見1

- ・教育の果たす役割は、生徒一人一人が持っている「力」を引き出してあげることである。そのために一人一人の良いところを見つけて、是非とも皆で褒めてあげてほしい。それが自己肯定感につながり、さらには自信へとつながっていくと思う。

感想・意見5

- ・学校教育目標に沿って、きめ細やかな教育活動が行われていると思う。
- ・コロナ禍で大変な注意を払いながら対応に努めており、自校評価での職員達成度は低くても、保護者や生徒の評価は高い項目が多くみられる。生徒対象のアンケートでは、A・B・Cの回答が多く、学校教育目標にあるような取組を教職員と生徒が信頼関係を築き、学校全体で実践していると感じた。

感想・意見6

- ・今年度の学校運営協議会委員として会議に参加させていただき、本校をより知ることができた。本当に熱心に学校運営に取り組み、努力されていることに感心した。
- ・地元の学校の生徒が、いろいろな活動を通して活躍していると聞くと、嬉しくなる。本校の生徒が将来、地元や様々な場で活躍されるのを心から祈っている。指導や運営などで教職員は大変だと思うが、地域住民として今ある関有知高校に感謝し、これからの関有知高校に期待している。

7 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は国の緊急事態宣言発令に伴い、書面開催とした。委員の皆様には各分掌の今年度の取組についての成果や課題、そして来年度に向けた方針等についての資料を送付し、様々なご意見をいただくことができた。コロナ禍により、例年とは異なる対応を迫られることも多くあったが、生徒一人一人を大切にする本校の姿勢に対してご理解とご賛同をいただけたものと考えている。今後も地域に根差した教育活動を積極的に行い、地域とともにある学校づくりに励んでいきたい。

総 務 部

1 令和2年度 of 取組み

(1) 学校見学会

10月3日(土)、11日(日)に中学生とその保護者向けの学校見学会を開催。

(2) 関有知ジモト大学

特定非営利活動法人・せき・まちづくり NPO ふうめらんにご協力をいただき、地元の方々に講師となっただき、様々な職業の体験ができる「関有知ジモト大学」を開催した。

12月9日(水) 1学年全体に向けてLHRで事前説明会と体験会を行い、アンケートを実施。

12月15日(火)、1月20日(水)、2月9日(火)の3回開催。

2 成果と課題

【 成 果 】

(1) 学校見学会

2日間で25の中学校から201名の中学生と150名の保護者の参加があった。また、後日生活デザイン科を志望する中学生2名から学校見学の申し込みがあり、3回目の学校見学会を行った。

(2) 関有知ジモト大学

第1回 参加者16名

- ・【体幹を鍛えて筋力アップ。目指せ美スタイル！】 講師：高藤 潤さん
- ・【革靴・革小物をピカピカにしよう！】 講師：LEONさん
- ・【スマートフォンで！ばえる写真の撮り方、映り方】 講師：小川 伸二さん

第2回 参加者9名

- ・革小物職人 【自分で作る！ オリジナル革しおり】 講師：富岡 祐介さん
- ・ネイリスト 【ハンドケアで第一印象アップ】 講師：加藤 沙織さん



第1回【革靴・革小物をピカピカにしよう！】



第2回【自分で作る！ オリジナル革しおり】

【 課 題 】

今年度はコロナ禍で、学校見学会の日程も変更され対面での授業体験も実施することができず、関有

知ジモト大学も講師の方を招くことなくリモートで開催した。新しい学びの場をつくるという視点で考えると、生徒と対面して体験活動を行えなかったことが一番の課題であり、コロナウイルスの感染収束を待つばかりである。

(1) 学校見学会

学校紹介映像、授業紹介映像は参加者に大変好評ではあったが、学校全体での行事という認識がまだ不十分であり、今後どのような見学会の在り方がいいか議論していく必要がある。

(2) 関有知ジモト大学

講座の参加生徒の反応は大変好評であったが、参加者数が少なかったことが課題となっている。「関有知ジモト大学」の具体的活動の認知度がまだ始まったばかりで低いことが原因と考えられるので、今後継続した活動が必要である。

3 令和3年度に向けて

(1) 「総合的な探究の時間」について

1年生後期の「総合的な探究の時間」に1年学年団+地元の有志の方を募って講師になっていただき「課題研究」を行って発表会を企画。

地元からの講師は、NPO 法人ぶうめらんを通じて募る。

予定

5月 生徒へのアンケート、講師選定

9月 講師決定

10月 グループ分け

11月～2月 課題研究

※課題研究の時間は要検討

2月 課題研究発表

(2) 学校見学会の充実

今年度は映像を通じての学校紹介や授業紹介を行ったが、見学する中学生に関有知高校のどのような魅力をどのように伝えていくのか、全校体制で考えていく場を設ける。

(3) 「関有知ジモト大学」の充実化

今年度開催した「関有知ジモト大学」アピールを行っていききたい。そのために今年度参加した生徒の声をもっと広めていききたいと考える。

(4) 「居場所カフェ」の検討と実施

「居場所カフェ」とは。

2014年12月にNPO法人パノラマが神奈川県立田奈高校でオープンした「びっくりカフェ」を始めとし、現在全国で様々な団体により約50箇所ほどの校内居場所カフェが開設されており、数年前より注目を浴びている新しい若者支援の形です。

高校内に高校生がくつろげるカフェを作り、それをNPO法人のスタッフや地域のボランティアスタッフが運営します。学校との連携はNPO法人スタッフが担います。

学校の中でありながら、外に開かれ、カフェという学校らしくない場所を作ることで、生徒側には生徒同士の新たなつながりを生み出したり、時には「先生でも身内でもない大人」だからこそ言える話をしたりできます。また、地域住民にとっても学校に関わりやすくなり、相互理解と文化交流を深めることができます。

開催高校例

・神奈川県立田奈高校（ぴっかりカフェ）、神奈川県立大和東高校（BORDER CAFE）、大阪府立西成高校（となりカフェ）、静岡県立静岡中央高校（きやりこみゅカフェ）、新潟県立阿賀野高等学校（AGNU）2020年度オープン

2月15日（月）or 17日（水）に職員向けて、NPO法人パノラマの代表理事石井正宏さんをお招きして「校内居場所カフェ」の研修会を開催予定であり、来年度の「居場所カフェ」の設置に向けて検討していく。

◆読書活動（図書館指導）について◆

①図書館の読書環境整備

館内には、新刊や映画・ドラマ等で話題になっている図書、図書館だより「Library」で特集した図書の常設コーナーがあり人気も高い。行事や季節ごとに関連図書を展示するなどディスプレイを工夫し、親しみやすい雰囲気となっている。分類別の書架サインを設置し、図書が探しやすくなっている。図書委員会を中心に、誰もが気軽に利用できる図書館の環境作りに努めている。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、入口に手の消毒液を置き、開館中は換気の徹底、席数を減らし間隔を取る等を行った。

②朝の読書タイム

今年度は11月5日から18日の8日間、1月6日から22日の11日間の年2回実施した。（例年は年3回実施しているが、5月休校のため年2回となった）

生徒が自分で本を選ぶきっかけとして、「朝の読書タイム」の期間前には先生方のおすすめ本を図書館だより「Library」で紹介し、一人一人に配付した。さらに、先生方のおすすめ本も図書館に取り揃えたので、朝の読書タイムの期間は特に多くの生徒が図書館を利用した。



教 務 部

1 令和2年度の取組み

① 学校組織の改編による役割の明確化

令和2年度より昨年度までの教務部が分割され、学校全体の行事企画や庶務、外部との交流、研修などを担当する総務部と、時間割や学習指導、情報管理などを担当する教務部とされた。また、総務部の中に渉外担当の係を、教務部の中に情報担当の係を置き教員それぞれの役割が明確化された。これにより、一部の教員に過度の業務の集中が起きる状況がある程度改善することができた。また、新型コロナウイルス感染症への対応やタブレット端末の導入など年度当初予期していなかった事態に対して機動的に対応することができた。

② 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行拡大にともない、4月9日から臨時休校となり、臨時休校期間は6月12日まで順次延長された。臨時休校期間の間は課題の郵送やミーティングアプリを活用したWEB授業などを行い、生徒の学習支援を行った。また、学校の再開に先立って5月26日からは感染予防を徹底したうえで学年ごとの分散登校を実施した。

教務部では臨時休校の延長に合わせて、各分掌と打ち合わせを行いながら、随時年間の行事計画の見直しを行った。年間行事計画の見直しの際には、生徒の学習の機会を守る事、感染予防に配慮すること、行事の削減やスケジュールの見直しが生徒に過度の負担とならないよう配慮するよう心掛けた。

③ 情報管理担当の明確化による機動的な対応

従来、教務部内の係の一つであった情報管理担当であるが、ICT機器の教室設置やグループウェアの導入に伴い業務が多くなるとともに学校全体をリードする場面が増えたため人数を配置し、チームとして活動できるように組織改編を行った。これにより、学校のデータ管理やICT機器を効果的に活用するための研修や機器整備が効率よくできるようになった。また、このチームが中心となって臨時休校期間中のWeb授業の機器の整備や時間割の編成トラブルへの対応が効果的に実施でき、一人一台タブレットへの対応についても、生徒の現状を踏まえたうえで適切に準備を進めることができています。

④ 令和4年度教育課程編成に向けての取り組み

令和4年度から実施される新しい学習指導要領に対応した教育課程の編成に向けた取り組みを実施した。まず、現在の教育課程の問題点を明らかにするとともに、令和3年度までは現在の教育課程を実施するためそのより良い運用のための改善を検討した。また、関有知高校の現状を出来るだけ客観的にとらえることができるようにするため、過去の関有知高校と現在の関有知高校の状況、地域の状況を写真や数値で比較した。そして、それをベースにして関有知高校のグランドデザインおよび教育課程の案の作成に取り組んだ。

来年度は新しい教育課程を決定するとともに、そこで行われることになる特色ある教育活動の計画や準備に取り組んでいきたいと考えている。

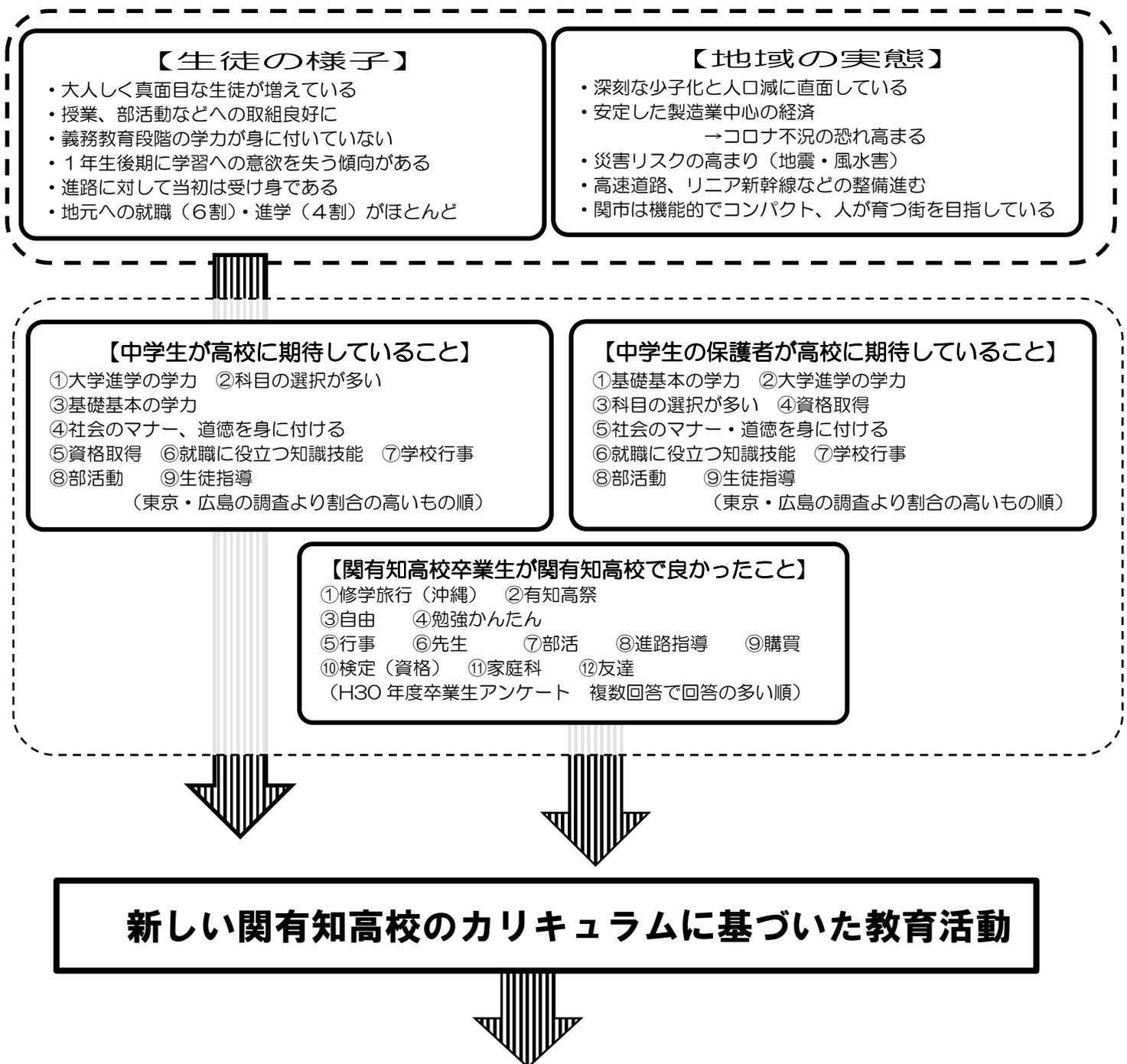
その他の取組

- ・ 学校行事を円滑に行うための計画、運営および校務分掌・学年の調整
- ・ 企画委員会、職員会議の役割の明確化と円滑な運営
- ・ 時間割編成および授業時数の確保
- ・ 定期考査の円滑な運営
- ・ 単位修得へ向けた支援体制の構築、担任、学年会、学科との連携
- ・ 校務支援システム（E教務）の的確な運用・管理と校務の効率化の推進

2 令和3年度に向けて

- ・学習支援ソフト metamoji の活用に向けての研究、及び環境整備を行い。授業での実践を行い、指導事例を蓄積する。
- ・令和4年度より実施する新しい教育課程の決定。及び、実践に向けて各教科での研究および教材などの準備を促す。
- ・定期考査の運営や校務支援システムの効率的かつ安定的な円滑な運営を行う。
- ・授業・学校の評価と改善を実施する。

【参考1 新しい教育課程編成に向けた基本方針（案）】



【3年間で身に付ける力】

創造	<p>【キーワード】 キャリア設計・進路実現・社会貢献・部活動</p> <p>アイコン：刀鍛冶</p>
敬愛	<p>【キーワード】 コミュニケーションスキル・読む・ 聴く・書く・話す・より良くつながる、礼儀、マナー 大人とのコミュニケーション アイコン：花神輿</p>
自立	<p>【キーワード】 基礎学力・自ら学ぶ姿勢・自己管理</p> <p>アイコン：長良川と篝火</p>



- 【めざす進路】
- ・推薦入試やAO入試を活用して地元や愛知県内の大学などに進学する
 - ・仕事上のマナーなどを身に付けて地元の企業へ就職する

【参 考 2】 令和2年度関有知高校職員による重要度認識および自校評価

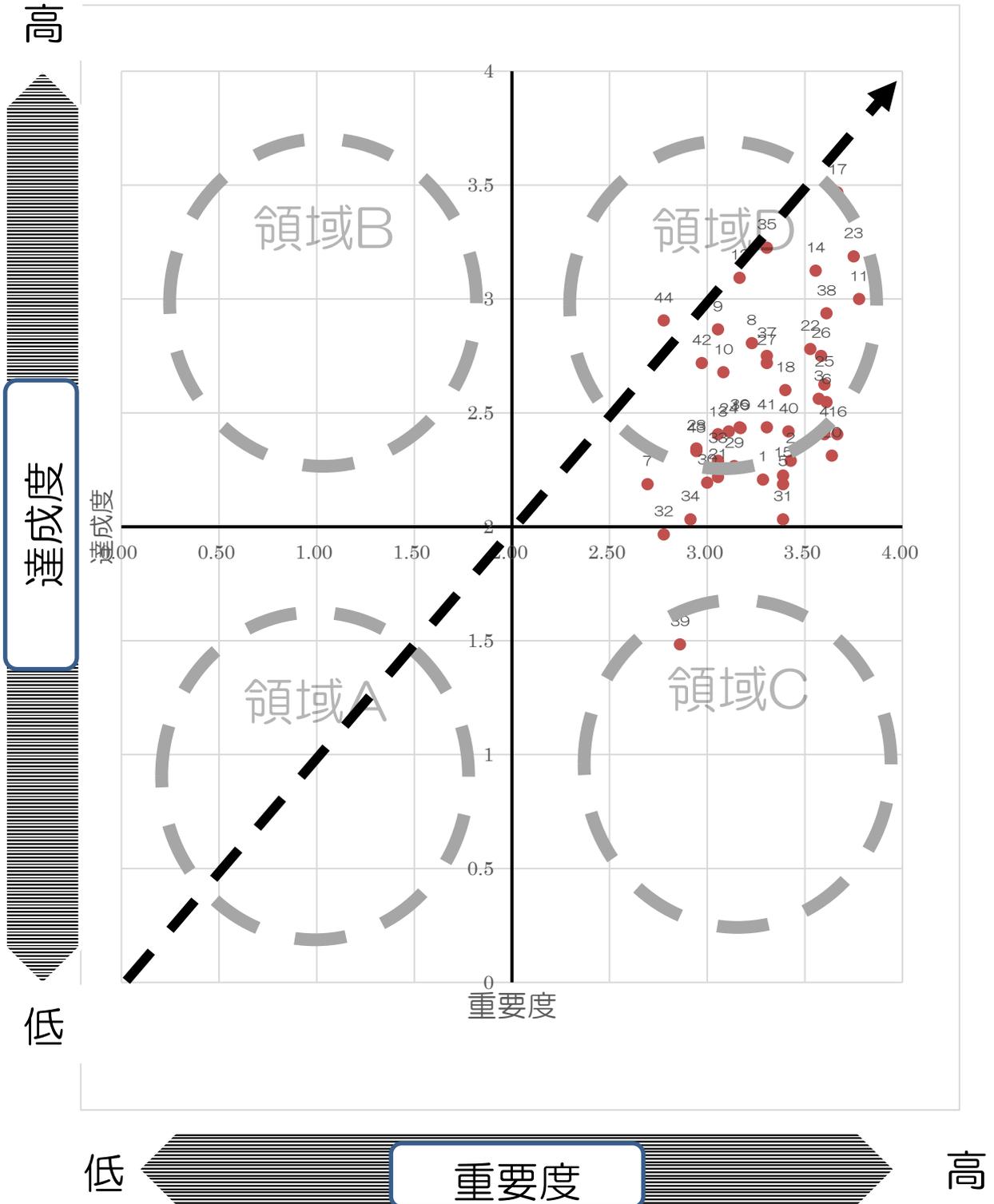
実施令和2年12月

4…大変重要	4…十分達成
3…重要	3…達成
2…重要度は普通	2…普通
1…重要ではない	1…不十分
わからない	わからない

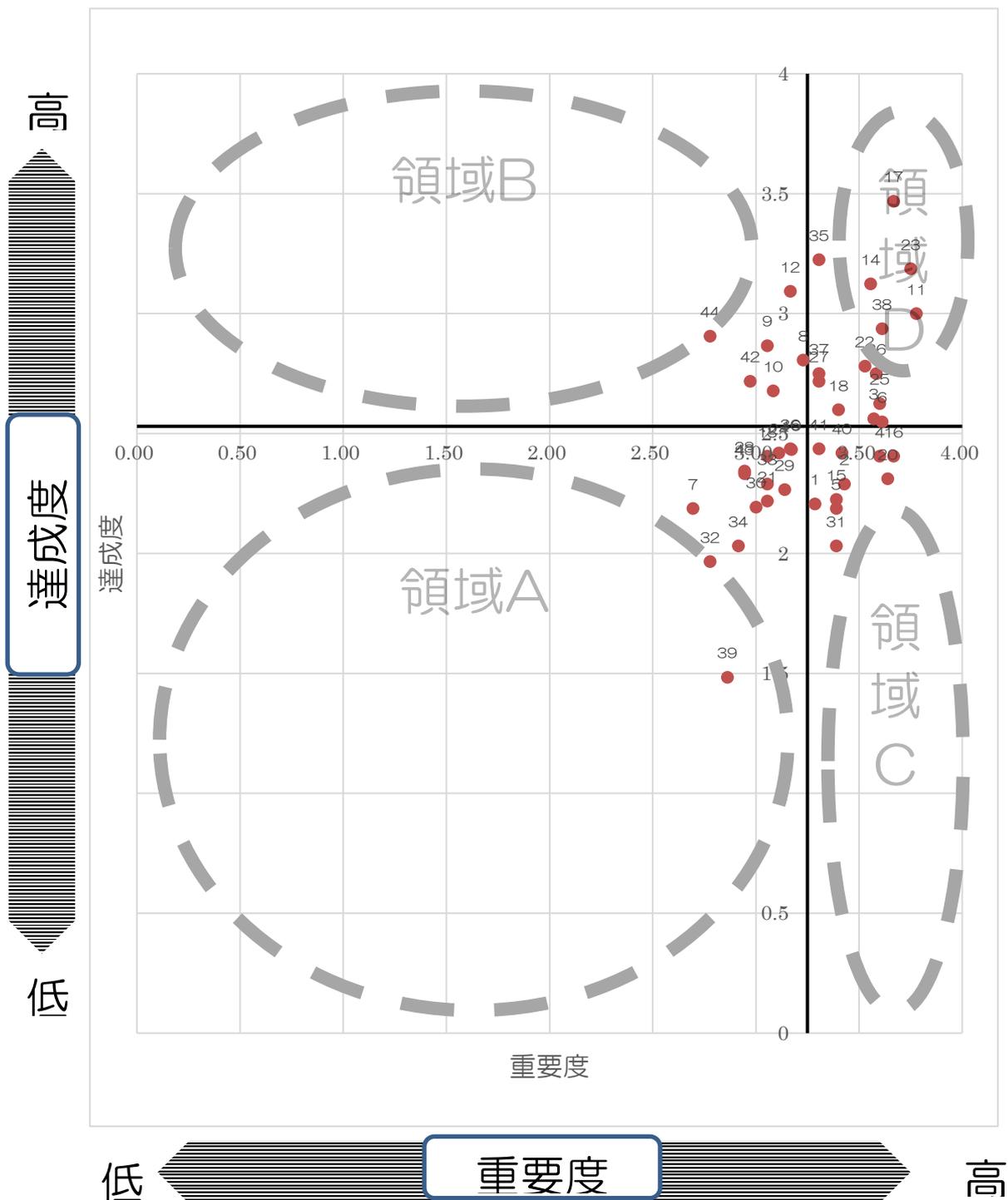
	項 目		職 員	標準偏差	職 員	標準偏差	参考	参考
	回答数		重要度		達成度		保護者	生徒
			34		32		100	92
学校経営・ 教育方針	1	教職員が学校の教育目標であるに共感していること	3.29	0.78	2.21	0.71	3.34	2.97
	2	教職員が学校教育目標の実現をめざして教育活動に努めること	3.43	0.77	2.29	0.63	3.12	/
	3	生徒がよろこんで学校に登校すること	3.57	0.69	2.56	0.75	3.22	3.09
	4	単に学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとする	3.60	0.60	2.41	0.70	3.12	3.35
家庭との連携	5	学校の教育方針や指導の内容を保護者（地域）に分かりやすく伝えること	3.39	0.72	2.19	0.63	2.99	/

	6	学校からの情報や連絡文書等を確実に保護者に伝えること	3.61	0.54	2.55	0.71	3.20	3.41
家庭との連携	7	保護者（地域）が授業や学校行事等を参観する機会等をもうけること	2.69	0.70	2.19	0.73	2.77	
	8	保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応すること	3.23	0.80	2.81	0.69	3.03	
	9	ホームページ等を用いて、保護者や（地域）へ様々な情報を速やかに伝えること	3.06	0.70	2.87	0.72	3.24	3.02
	10	P T A等の関係団体の徴収金について、その予算や決算、経費を適切に執行するとともに内容を詳細に公表すること	3.08	0.76	2.68	0.80	3.37	
	11	各種文書や個人情報等を適切に管理すること	3.78	0.48	3	0.87	3.48	3.14
	12	一斉配信メールサービスを有効に活用すること	3.17	0.80	3.09	0.76	3.55	
	13	学年通信やパンフレットなどを配付して、家庭で主体的に進路について考えられるようサポートすること	3.06	0.66	2.41	0.70	3.11	
教職員	14	保護者やお客様の来校や電話に適切に対応すること	3.56	0.64	3.13	0.74	3.40	
	15	教職員が学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりに意気込みを持つこと	3.39	0.68	2.23	0.61	3.17	2.96
	16	授業をとおして、生徒の学力が向上するように指導すること	3.67	0.47	2.41	0.90	3.16	2.93
	17	学校全体で、体罰の防止に努めること	3.67	0.58	3.47	0.66	3.48	3.16
学習指導	18	選択授業や少人数授業を積極的に行い、生徒の理解を高めること	3.40	0.73	2.6	0.71	3.23	2.83
	19	授業などで一人一人の能力に応じた指導を行うこと	3.17	0.70	2.43	0.67	3.05	2.75
生徒指導	20	高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導を行うこと	3.64	0.54	2.31	0.68	3.05	3.29
	21	高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行うこと	3.06	0.74	2.22	0.70	3.14	3.28
	22	個々の生徒の悩みに対して適切な相談などを行うこと	3.53	0.60	2.78	0.70	3.04	2.70
	23	いじめや差別を許さず、厳しく対応すること	3.75	0.43	3.19	0.73	3.00	2.92
進路指導	24	進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けること	3.11	0.57	2.42	0.79	3.03	3.10
	25	生徒の進路希望に沿って適切にアドバイスをすること	3.60	0.55	2.63	0.48	3.11	3.14
安全管理・健康	26	生徒の安全・衛生面に配慮し安全指導を行うこと	3.58	0.55	2.75	0.83	3.10	3.22

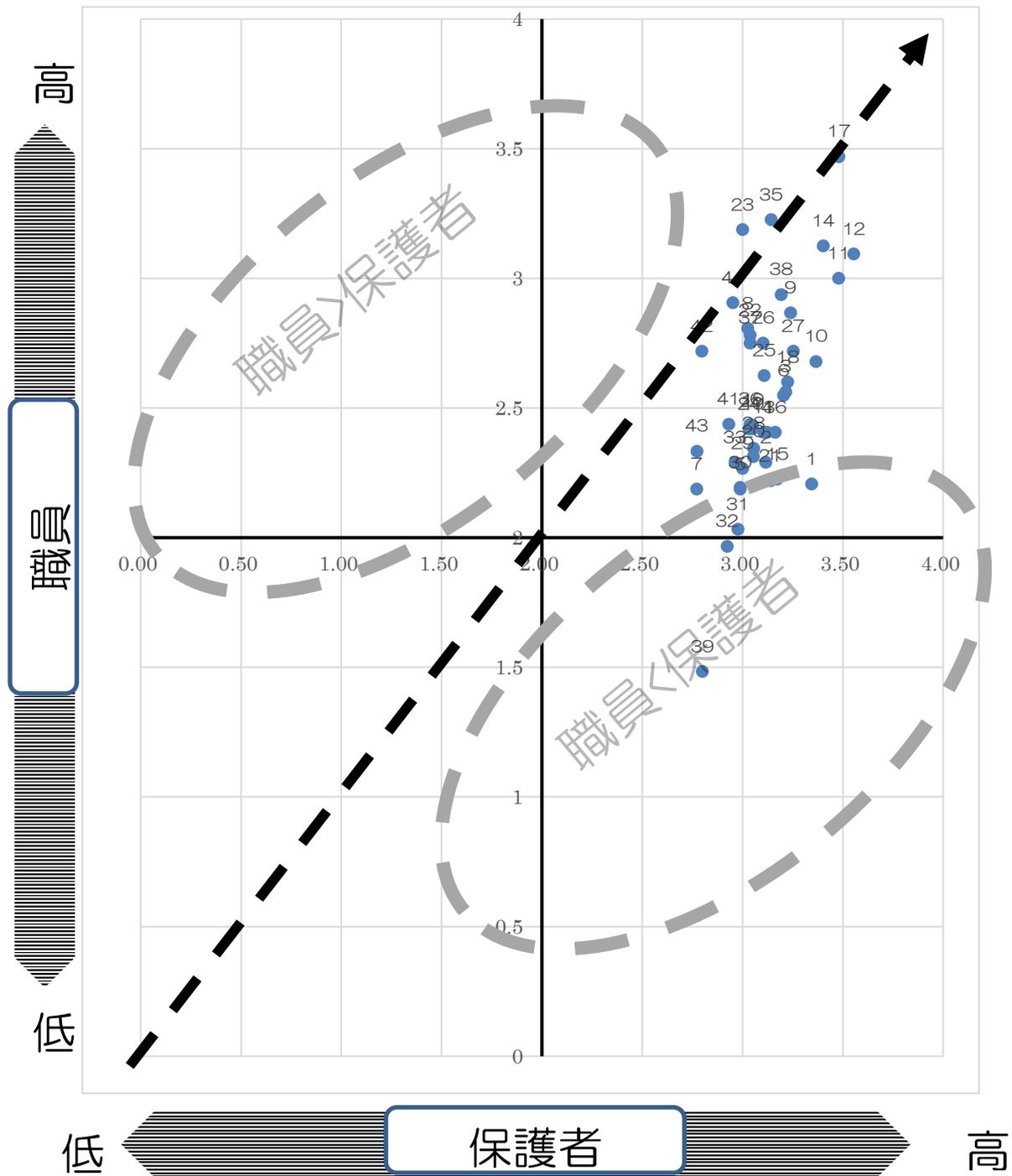
	27	地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対応の方法を伝えること	3.31	0.84	2.72	0.76	3.25	3.30
学校行事	28	外部講師の講演や様々な体験を積むなど、授業以外の学習の機会を多く設けること	2.94	0.62	2.34	0.77	3.06	2.68
	29	生徒が成長の糧となるような学校行事を行うこと	3.14	0.63	2.27	0.68	3.00	2.37
	30	部活動を活発に行うこと	3.00	0.85	2.19	0.69	2.99	2.85
	31	学校の施設・設備は、学習環境を整備すること	3.39	0.68	2.03	0.69	2.98	2.82
	32	ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供すること	2.78	0.63	1.97	0.75	2.92	2.63
	学校独自項目	33	保護者・地域・関係機関との連携を密にして、開かれた学校づくりをおこなうこと	3.06	0.70	2.29	0.63	2.96
34		普通科において特色ある学習活動を行うこと	2.91	0.77	2.03	0.59		
35		生活福祉科において特色ある学習活動を行うこと	3.31	0.74	3.23	0.66	3.14	3.08
36		就業体験（インターンシップ）など、生徒の職業意識を高めるキャリア教育を推進すること	3.17	0.69	2.44	0.75	3.04	2.67
37		生徒理解に努め、共感的生徒指導を行うこと。	3.31	0.52	2.75	0.61	3.04	
38		生徒の安全に十分配慮し、校内での怪我、病気、事故等に適切に対応すること	3.61	0.59	2.94	0.61	3.19	
39		学習習慣を養うため、家庭学習の定着に努めること	2.86	0.63	1.48	0.62	2.80	2.45
40		十分な知識と経験に基づき進路指導を行うこと	3.42	0.55	2.42	0.49	3.05	
41		「身だしなみ」等校則の意義を説明し、理解させようで指導すること	3.31	0.62	2.44	0.66	2.93	3.14
42		学校での生徒の様子について日常的に家庭との連絡をとること	2.97	0.80	2.72	0.67	2.80	
43		生徒の家庭での生活状況を十分把握すること	2.94	0.81	2.33	0.47	2.77	
44		利用しやすいホームページを作成運営すること	2.78	0.63	2.91	0.76	2.95	2.84
平均値			3.25		2.53		3.10	2.97



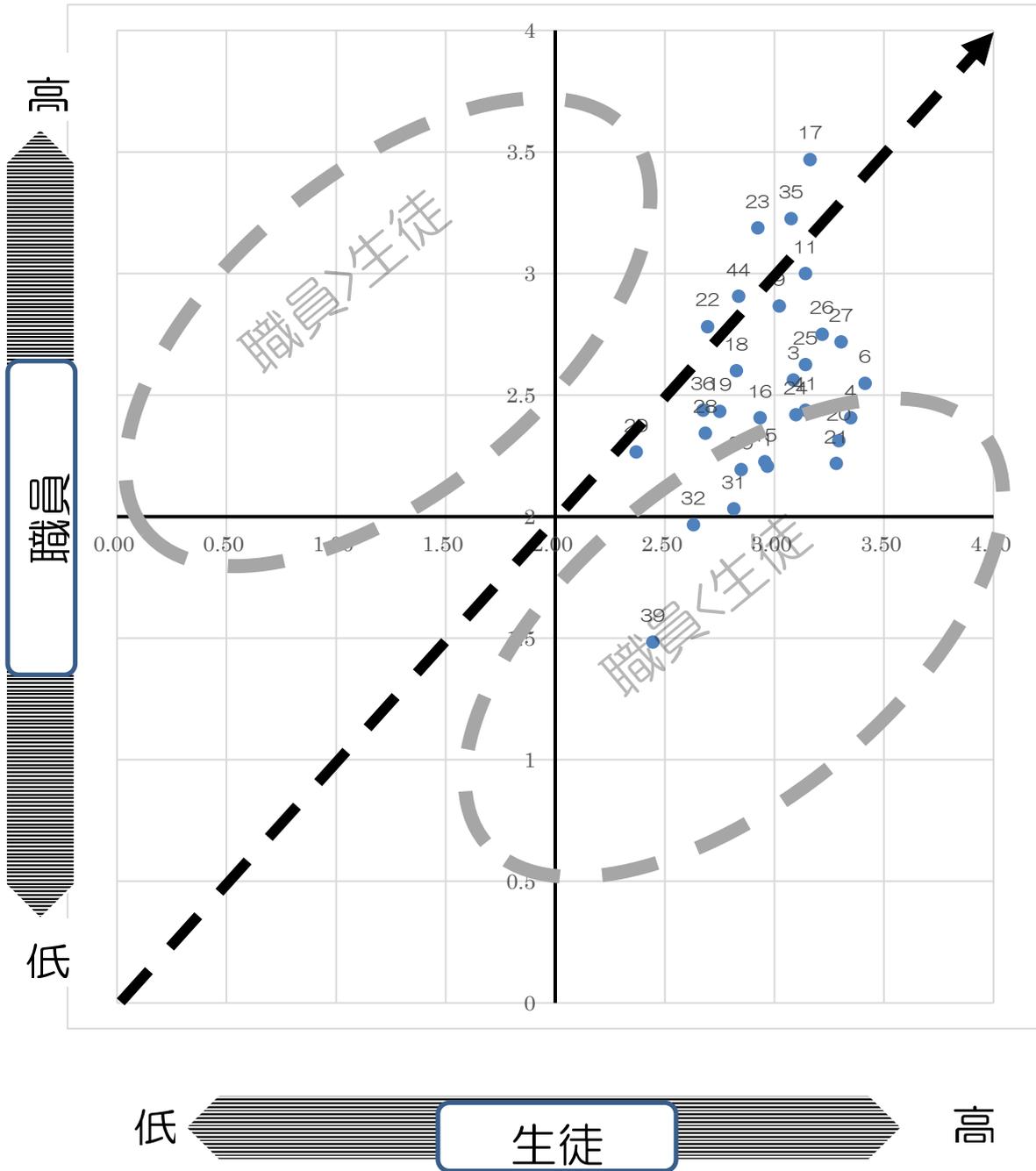
軸を職員の平均値に置いたもの



職員の認識と保護者の認識の比較



職員の認識と生徒の認識の比較



生徒指導部

1 令和2年度の取組み

【生徒指導・教育相談】

(1) 命を大切に作る心や態度の育成

<交通安全啓発活動>

■年間を通し毎週火曜日の朝は、MS リーダーズと生徒会執行部が校門での「あいさつ活動」を継続した。また、同時に自転車通学生に向け交通安全への呼びかけを行った。

<マナー向上キャンペーン活動>

■年末には交通安全県民運動の一環として、自転車事故防止のプラカードを作成し学校周辺に立ち啓発活動を行った。



あいさつ活動



年末自転車事故防止キャンペーン活動



(2) 規範意識の育成

<生活指導（身だしなみ・スマートフォンの使用等）>

■毎月1回、「身だしなみ検査」の日を設け、乱れを正すとともに身だしなみの基準を示し、「望ましい姿」の確認と高校生として社会で求められる姿はどのようなものかを考える機会とした。

■スマートフォンの扱いについては、学習に集中することや、ネット依存を立て直す機会として学校生活における使用制限を継続している。

■社会人の資質として求められる生活規律の確立の一環として、遅刻に対する段階を踏んだ指導を継続した。また、生徒自身の意識の改革と家庭の協力を得るため保護者同席の面談の機会も設けた。

(3) 人権意識の高揚といじめの未然防止

<いじめに関するアンケート・いじめめいわく調査>

■メールによる「いじめアンケート」が導入され、年間3回行ったが、生徒の実情を踏まえ、以前から行っている本校独自の紙面による「いじめめいわく調査」を3回行った。6回行うことにより、いじめの早期発見や悩み等の相談に生かした。また記述のあった迷惑行為については、たよりを作成し自己中心的な行動や公共のマナーを欠く行為への振り返りを促した。

(4) 情報モラルに関する指導

<情報モラルに関する講話>

■全校で集合し講話を聴き学ぶ予定であったが、感染予防の観点からクラスごとにオンライン形式で講話を聴き SNS のトラブルについて学んだ。関警察署生活安全課の署員の方からの講話は、実例に沿ったものでインターネットに潜む危険を知る機会となった。

■全校で3クラスを抽出したアンケートでは、7割の生徒が「インターネットや携帯電話でSNSに書き込みをしたことがある」と回答しており、4割の生徒が「ゲームや書き込みで3時間以上、5時間以上使っている」と回答している現実を注視しなければならない。

(5) 教育相談・特別支援教育の組織的な対応

<教育相談旬間>

■年間3回を計画していたが、新型コロナによる休校措置が延長された為、第1回は、分散登校期間中に行った。クラス開きもないまま不安な新年度を迎えた生徒たちに向けて、正副担任による心のケアのための二者面談を実施した。第2回、第3回は長期休業明けに予定通り行い生徒の悩みや進路相談に応じた。

<情報交換会>

■学年会では学年全体の生徒情報の共有に努めるとともに、月例の職員会議では情報交換会を行い、共有の必要な情報については全職員に周知し配慮や見守りに生かした。

<心のアンケート>

■コロナ禍における生活の変化や心の不安定さを確認する「心のアンケート」を年間11回行った。漠然とした不安感を抱く生徒が少なからずおり、担任から思いを確認する機会とすることができた。

<スクールカウンセラーの活用>

■本校担当の臨床心理士によるカウンセリングを年間28回行い専門家との連携を図った。生徒は学校生活への不安感や人間関係作りの困り感などを相談し、アドバイスを得るなど不安の軽減に繋げることができた。一方教職員は、SCとのコンサルテーションの場を持つことで、生徒の抱える課題について有効な情報交流を持つことができた。

【特別活動】

望ましい集団の育成や個人的・社会的資質の育成

<生徒会活動>

■新型コロナ感染防止の点から、多くの学校行事や生徒会行事が中止または変更を余儀なくされた1年であった。生徒が楽しみにしていた多くの行事が中止になる中で、生徒会の発案で学校祭についてのアンケートが実施され、代替行事として秋にスポーツ大会を行い大いに盛り上がった。

■12月に開催される交通安全推進大会に参加することを受け、高校生の交通安全について生徒会からの発案で、自転車事故防止のプラカードを作成し学校周辺に立ち啓発活動を行った。



秋のスポーツ大会

交通安全啓発活動

< 部活動 >

■コロナ禍において多くの大会が中止となり、3年生にとっては成果を発揮する機会が失われることとなり、大変残念な年であった。その中で下記のような成果を収める部活もあった。

(※東海大会以上記載)

ライフル射撃部	・2020年度全国高校スポーツ射撃競技大会	ビームピストル男子個人	3位	丸山	昂紀
		・令和2年度第19回秋季東海地区高等学校ライフル射撃競技大会			
	エアライフル女子個人	優勝	馬淵	音羽	
	ビームライフル女子団体	3位	馬淵	音羽	
			若山	佳奈	
			小山	音寧	
	ビームライフル女子個人	2位	馬淵	音羽	
	ビームピストル男子個人	4位	若山	晃成	
	エアライフル女子個人	8位	若山	佳奈	
	将棋同好会	・第29回全国高等学校文化連盟将棋新人大会兼 令和2年度岐阜県高等学校総合文化祭将棋部門	個人戦	3位	竹内
個人戦			4位	熊澤	未帆

2 成果と課題

【成果】

今年度は、新型コロナウイルスの影響で例年とは異なる状況下での学校生活となり、生徒たちの心身にも多大な影響を及ぼしたものと考えられる。心身のバランスを崩し欠席が増えた生徒、家庭状況の変化により不安や悩みを背負い込んだ生徒も多かったに違いない。しかしその状況下でも、ほとんどの生徒が明るく元気に登校できたことに安堵している。

また、近年の本校の傾向として、粗暴な問題行動は激減しており生徒たちは比較的落ち着いた学校生活を送っている。一方で、人との関係作りが苦手な生徒や人間関係に悩みを抱える生徒の増加が顕著となっている。

生徒指導部では、これまで通り「安全で安心できる学校生活をおくるための基盤づくり」として指導や支援を継続してきたが、その多くの取組に対して生徒・保護者等に理解を得ることができた。

【課題】

スマートフォン等の個人端末の使用については、次々と新しいアプリケーションが提供される現状で、モラルやマナーに対して大いに危機意識を持っており、情報モラル教育の充実が必要である。

いじめ等、人間関係に関わる対応についての保護者からの要望は年々高まる傾向があり、抱えている悩みや問題を共に解決していくという支援体制をさらに見直す必要がある。

3 令和3年度に向けて

- 安心・安全な学校作りと社会人として必要な資質を身に付けさせるために、これまで通り細やかな指導と支援を継続する。
- 自己指導能力（自分で考え、自己決定する）を育成するための指導や支援を行う。
- 本校のきまりの基準やいじめ・問題行動に対する指導の方針等、情報の発信に努め理解と協力を繋げたい。
- 専門家と連携を図り、課題を抱える生徒への組織的対応をすすめる。

進路指導部

1 令和2年度の取組み

(1) 第1学年

- ・ 進路オリエンテーション(6月)：関有知高校のキャリア教育の概略及び1年生のキャリア教育活動の流れをつかむ。
- ・ 職業調べ(6月)：厚生労働省の職業情報提供サイトを利用して様々な職業について調べる。
- ・ オンライン企業見学(11月)：関市みんなの就職サポートセンターの協力で、関・美濃地区の企業をオンラインで繋いで見学する。
- ・ 学校(大学・短大・専門)調べ(12月)：資料や各学校のHPを利用して進学先について調べる。
- ・ 進路講演会「3年生との交流会」(1月)：3年生進路内定者から体験談を聴く。

(2) 第2学年

- ・ 進路オリエンテーション(6月)：2年生でのキャリア教育活動の概略をつかむ。
- ・ 職業調べ(6月)：職業提供サイトと関市みんなの就職サポートセンターのHPを利用して、特に地元の企業について詳しく調べる。
- ・ 進学、就職調べ(7月、9月)：本校で作成している「進路の栞」を活用して、進学や就職の仕方からより具体的に学ぶ。
- ・ 職業探究インタビュー(11月)：関市みんなの就職サポートセンターの協力で、地元企業の採用担当者を招き、直接企業の説明を聴く。(約30社)
- ・ 進路講演会「3年生との交流会」(1月)：3年生進路内定者から体験談を聴く。

(3) 第3学年

- ・ 進路オリエンテーション(5月)：3年生でのキャリア教育活動の概略をつかむ。
- ・ 進路別オリエンテーション(6月)：進路別に昨年度の状況や進路活動の流れを詳しく説明する。
- ・ 模擬面接指導(7月～11月)：就職試験や推薦入試に対する意識を高め、必要なマナーを身に付ける。8月には外部講師による就職模擬面接指導を実施した。
- ・ 就職補習(6月～)：就職試験を突破し社会的・職業的自立をするために、職業観・勤労観、忍耐力、人間関係調整能力、基礎学力等を養う。
- ・ 小論文講座(9月～)：推薦入試等への小論文試験対策を行う。
- ・ 内定者・合格者指導(12月)：内定者・合格者としての心構えを確認する。

(4) その他の取組み

- ・ 進路希望調査(1・2年生2回、3年生1回)の実施。
- ・ 進路適性検査(1年わくわく、2年DSCP)の実施。
- ・ 基礎力診断テスト(1・2年生3回、3年生1回)の実施。
- ・ ステップ基礎小論文(2・3年生各1回)の実施。
- ・ 進路補習(6月～)…希望者に対して各教科の基礎講座や受験対応講座を開講し、進路選択の幅を広げ、実現に向けた学力の向上を目指す。
- ・ 3年生は「高校生の一般常識サポートドリル」を活用し、校内進路模擬試験を実施し、基礎力の向上に取り組んだ。



2年生職業探究インタビュー（体育館）



2年生職業探究インタビュー（格技場）



1年生オンライン企業見学



3年生との交流会

2 成果と課題

【 成果 】

- 新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった行事がある中で、関市商工課みんなの就職サポートセンターと連携してコロナ禍に対応した形で実施することができた行事もあった。
 - ① 2年生職業探究インタビュー：感染症対策を徹底したうえで、密を避けるために少人数のグループに分かれてインタビュー(説明)を行うことができた。(約30社の地元企業に参加いただけた)
 - ② 1年生オンライン企業見学：当初はバスでの企業見学ツアーを予定していたが、オンラインを活用して企業説明や工場見学を行った。
- 3年生との交流会では、全職員で協力して感染症対策として昨年度とは違う形で実施することができた。
- 3年生の進学・就職試験について、新型コロナウイルス感染症の影響による休校措置や進学試験・就職試験の時期等の変更に対応するため、例年以上に本校のキャリアプランナーや3年生学年団を中心に全校体制で面接指導や就職補習、小論文指導など協力して行うことができた。
- 3年生の進路状況

		四 大	短 大	専修学校等	就 職	計
普通科	男子	6	1	16	35	58
	女子	6	4	12	30	52
生活福祉科	男子	2	0	1	2	5
	女子	2	4	13	11	30
計		16	9	42	78	145

【課題】

- ・ 今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった行事について、来年度同じようなコロナ禍になったとしても実施することができるような方策を検討しておく必要がある。
- ・ コロナ禍においてだけではなく、来年度も継続して外部機関・地域との連携も含めて、全校体制で協力して各学年に対応した進路指導を行っていけるようにする。

3 令和3年度に向けて

- ・ 3年生の進学・就職指導において、今年度の協力体制を継続して行っていけるように指導体制を確立していきたい。
- ・ 1、2年生は、3年間の進路指導を見通すことができるように今年度から改編した『進路指導マップ』をもとに進路指導を行っていく中で、生徒がさらに進路を「自分ごと」にするために指導内容・時期・方法などをさらに分析・検討を重ねて、今の生徒にあったより良いものにしていきたい。

R 3 関有知高校の進路指導マップ ♪【一年生】



- 3年間で目指すこと
- 1 自分の「より良い」将来の目標と実現のための計画を立てよう
 - 2 自分の将来の目標を実現する力(学力・マナー・コミュカなど)を身に付けよう
 - 3 自分の目標の実現のためにひたむきに努力を続けよう

学年の目標	4月~7月	夏休み	9月~12月	冬休み	1月~3月	春休み
1年生の進路マップ 【1年生のテーマ】 1日も早く 高校生になる 卒業後の進路に ついて知る 進学について 具体的に知る	高校生になろう!		高校卒業後私たちは何になれるか知ろう!		進学について具体的に知ろう!	
	入学式 進路希望調査 基礎力診断テスト① 関有知高校進路ガイダンス よつこそ先輩 三者懇談	進路何でも相談室 大学見学ツアー 夏のオープンキャンパス 基礎力診断テスト②	進路適性検査「わくわく」 有知高祭 関の企業見学ツアー 進路希望調査 三者懇談	進路何でも相談室 基礎力診断テスト③ 三年生との交流会 進路別体験講座 学年末考査		春のオープンキャンパス

学年の目標	4月~7月	夏休み	9月~12月	冬休み	1月~3月	春休み
2年生の進路マップ 【2年生のテーマ】 就職について 具体的に知る 自分の関心のある 進路について 詳しく調べる 自分の進路希望 を明確にする	就職について具体的に知ろう!		関心がある進路について詳しく調べよう!!		自分の進路希望を明確にして、進路対策スタート!!	
	始業式 進路希望調査 基礎力診断テスト① ビジネスフラス展 職業探究インタビュー 三者懇談 進路何でも相談室	インターンシップ+看護体験 夏のオープンキャンパス 基礎力診断テスト②	進路適性検査「DSCP」 有知高祭 進路希望調査 三者懇談 進路何でも相談室	進路希望を明確にして、進路対策スタート!! 基礎力診断テスト③ 修学旅行 三年生との交流会 進学希望者各進路別体験講座 就職希望者面接講座 学年末考査		春のオープンキャンパス

相談強化月間

学年の目標	4月~7月	夏休み	9月~12月	冬休み	1月~3月	春休み
3年生の進路マップ 【3年生のテーマ】 自分の進路希望 を決定する 進路対策にひたむ きに取り組み進路 目標を実現する 経験を先輩に伝え 新生活の準備 を進める	自分の進路希望を決定して、進路対策をすすめる!!		進路目標を実現する!		経験を伝え、卒業後の準備を進める	
	始業式 進路希望調査 基礎力診断テスト 進学・進路別ガイダンス 就職・ビジネスフラス展 就職補習スタート 校内進路模試① 模擬面接指導 校内進路模試② 校内進路模試③ 志望校・志望企業決定 地方公務員など出願 三者懇談 進路何でも相談室	校内進路模試③ 出願準備・試験対策 外部模擬面接指導 就職模面接指導 就職試験スタート	進学・模面接指導 入学試験本格化 内定者指導 三者懇談	後輩との交流会 自由登校 卒業式		

!!! 進路実現直前期間 !!! !!! 進路実現直前期間 !!!

家庭教育部

1 令和2年度の取組み

(1) 進路内定状況

の配慮などから就職試験・入試等の日程が約一月遅れて始まったため未確定者も若干いる。進学先は保育、福祉、医療、食物、就職先は介護、製造、販売など多岐にわたっている。

(2) 課題研究

究期間となった。またコロナウイルス感染予防対策により食物コースは地域イベントでの販売が実施できず、福祉コースは高齢者施設や保育所に訪問し交流することはできなかったが、各コース、各グループで研究内容や交流方法を検討し、研究を進めることができた。児童研究班では安桜ふれあいクラブで10月4日(日)に行われたイベントに参加する予定であったが参加はできなかったため、安桜ふれあいクラブ担当者との打ち合わせを重ね、“ありがとうカード”製作キットを提供した。幼児研究班は“トンボのめがね”と“サンタクロースの起き上がりこぼし”の製作キットと作成動画を下有知保育園に提供し、11月19日(木)に実施していただいた。手話研究班は講習会でお世話になっているろう講師加藤嘉彦氏にアンケートを依頼し、手話を身近に感じてもらえるよう小冊子と手話初心者缶バッジを作成し、関市福祉総合会館に設置させていただいた。

研究の取り組みについては、研究冊子を作成するとともに、生活福祉生徒と本校職員に向け、令和3年1月15日(金)に「課題研究発表会」を開催した。

(3) 資格取得

検定(食物調理・被服製作・保育技術)やビジネス文書検定等に挑戦し、学習の基礎・基本の定着を図るとともに到達度を確認する目安となっている。生徒は各々合格を目指し、休日の課題や放課後の補習など計画的に取り組むことができた。

検定合格者(1月現在)

被服製作4級	31名合格
被服製作3級	22名合格
食物調理4級	21名合格
食物調理3級	22名合格
食物調理2級	26名合格
食物調理1級	8名合格



保育技術検定音楽・リズム表現技術4級	12名合格
保育技術検定音楽・リズム表現技術3級	12名合格
保育技術検定造形表現技術4級	29名合格
保育技術検定造形表現技術3級	13名合格
保育技術検定言語表現技術4級	28名合格
保育技術検定言語表現技術3級	22名合格
保育技術検定家庭看護技術4級	24名合格
保育技術検定家庭看護技術3級	24名合格
全商ビジネス文書実務検定3級	11名合格
速度部門3級	15名合格
文書作成部門3級	12名合格



(4) 各種コンクールへの取り組み

クールもあった。第21回鶏卵・鶏肉料理コンクールに1点、第7回ひるがの高原だいこん杯だいこんおろしアートコンテストに13点応募したが、入選はなかった。

(5) 外部講師による講習会

専門科目の学習を充実させるため、専門的な知識・技術とそれらを活かすことができる職業等について教えていただくため、外部講師の方を招き講習会を実施した。様々な分野の専門家から知識や技術を学ぶことができる貴重な体験となった。

対象生徒・実施授業科目	実施日	講習会・講師	
2年福祉コース	レクリエーション 実習	7月 2日 (木) 7月 16日 (木) 8月 27日 (木)	絵手紙講習会 日本絵手紙協会公認講師 藤田 涼子氏
	レクリエーション 実習	8月 31日 (月) 9月 11日 (金) 10月 5日 (月) 10月 12日 (月) 10月 19日 (月) 11月 2日 (月) 11月 9日 (月) 11月 13日 (月) 12月 3日 (月)	ピアノ演奏と歌唱講習会 音楽療法士・ピアノ講師 高井 美晴氏 
	レクリエーション 実習	7月 20日 (月) 8月 31日 (月) 9月 7日 (月) 9月 14日 (月) 2月 1日 (月) 2月 8日 (月)	手話講習会 関市聴覚障害者協会 加藤 嘉彦氏 手話通訳員 林 千代美氏
3年	課題研究	8月 28日 (金) 9月 4日 (金)	手話講習会 手話通訳員 林 千代美氏
3年福祉コース	生活と福祉	10月 8日 (木)	岐阜県認知症サポーター養成講座 岐阜県健康福祉部高齢福祉課 介護保険係 宮澤 由紀子氏
	生活と福祉	12月 10日 (木) 12月 17日 (木)	介護予防体操講習会 日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導員 レクリエーションコーディネーター 福祉レクリエーション・ワーカー 小原 信子氏
3年食物コース	調理	11月 6日 (金)	米粉パン講習会 美濃町家Mam's 河合 あゆみ氏
	調理	11月 17日 (火)	アイスボックスクッキー講習会 日本アイスボックスクッキー協会プロインストラクター 長屋 英美子氏



絵手紙講習会



2年手話講習会



3年手話講習会



岐阜県認知症サポーター養成講座



米粉パン講習会



アイスボックスクッキー講習会

(6) 高大連携

今年度も中部学院大学との連携により、生活福祉科1・2年生に対して、本校で大学の先生による出前授業を実施していただくことができた。12月14日(月)に「福祉の仕事に従事する際の心構えや福祉の仕事の種類」と題し、中部学院大学人間福祉学部人間福祉学科学部長 飯尾良英教授にご講義いただいた。3限目に2年生、4限目に1年生に向けて講義していただき、学年に応じて将来の進路選択や職業選択に役立てることができた。

(7) 中学生体験入学

来年度より科名変更となる生活デザイン科を希望する中学生に対して10月6日(火)に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防対策により体験入学は実施できなかった。代替として10月3日(土)と10月11日(日)に教務主催の学校見学会で生活デザイン科を希望する中学生にビデオメッセージを送るとともに、生活福祉科棟施設を見学していただいた。

(8) 地域との交流

① ボランティア活動

今年度は新型コロナウイルス感染予防対策により、高齢者施設等でのボランティア要請が全くなかった。そのため例年生活福祉科の生徒が取り組んでいる「月1ボランティア」を実施することはできなかったが、生活福祉科1年生がボランティア未経験のまま一年を終えることがないよう、担当教員主催でボランティアを募り行った。例年、清掃活動などのボランティアを行わせていただいている社会福祉法人平成会特別養護老人ホームハートフルにおいても、施設内に入る清掃活動ボランティアは実施できなかったが、紙風鈴や消しゴムハンコを用いた春の便りを送り、施設で暮らす高齢者の方に季節を感じていただくことができた。



② Sクラブ活動

国際ソロプチミスト関より助成いただき、地域との交流やボランティア活動を行うSクラブ活動においても、新型コロナウイルス感染予防対策により例年とは異なる実施方法となった。例年、年2回実施している関特別支援学校との交流は12月7日(月)に予定していたが中止となった。国際ソロプチミスト関とあかつき障害福祉サービス事業所つくしとの交流も12月8日(火)に予定していたが直前で中止となったため、生活福祉科1・2年福祉コースにボランティアを募りエコバックを仕上げ、あかつき障害福祉サービス事業所つくしに届けた。

(9) 学校家庭クラブ活動

① 校内活動

新入生教室へのフラワーアレンジメントの提供や家庭クラブ週間は例年通り実施することができた。太陽の日（校内清掃活動）については、各クラスの家家庭クラブ委員が棧などを掃除するシンデレラ棒を作り、保健厚生部の月末大掃除にタイアップして行った。

② 県連副会長校としての活動

本校が県連家庭クラブ副会長校として8月5日（水）に主催・開催予定であった家庭クラブ代議員会・指導者講習会は中止となった。そのため指導者講習会で行うはずであった「美濃和紙のギフトボックス」と「卵の殻で作る金魚の風鈴」の作り方と材料キットを県下の高校に配布した。また全国家庭クラブ研究発表大会も8月6日（木）7日（金）に富山県で開催される予定であったが中止になった。11月5日（木）開催予定の岐阜県家庭クラブ年次大会も中止になった。

来年度は県連家庭クラブ会長校として、本校が家庭クラブ年次大会を開催しなければならない予定である。



卵の殻で作る金魚の風鈴と材料キット 美濃和紙のギフトボックスと材料キット

2 成果と課題

【成果】

- ・コロナウイルス感染予防対策による様々な影響があったが、課題研究等を通して実際に施設に赴かず地域と交流する方法を模索することができた。
- ・コロナウイルス感染予防対策を徹底した上で、多くの外部講師講習会を実施することができ、生徒により専門的な知識と技術を習得させることができた。また検定試験についても実施期間等の変更はあったが、計画通り実施することができ資格取得にも挑戦させることができた。

【課題】

- ・1月の緊急事態宣言により来年度検定取得に向けての調理実習や外部講師講習会を実施することができなかったため、実施できなかった内容について授業を工夫し補う必要がある。
- ・課題研究等において、施設に赴かない交流の仕方を模索することができたが、例年、様々な授業や家庭クラブ活動、Sクラブ活動で実施してきた交流については、実施を見送ったものが多かった。来年度はこれらの交流についても実施の仕方を考え行っていきたい。
- ・生活福祉科の生徒が例年取り組んでいる「月1ボランティア」の活動を実施することができなかった。今年度はコロナウイルス感染予防対策により、地域の高齢者福祉施設等からのボランティア募集はなかったため、担当教員が主催しボランティアを募り行ったが、多くの生徒にボランティアを経験させる機会を与えることができなかった。来年度は家庭科教員や他教科の教員とも協力し、多くのボランティアを募り、生徒が様々な形でのボランティアを経験できるようにしたい。

3 令和3年度に向けて

- ・家庭クラブ活動、Sクラブ活動において、施設等へ赴かない交流の実現する。
家庭クラブ活動における関特別支援学校との交流やSクラブ活動におけるあかつき障害福祉サービス事業所つくととの交流をwebやビデオレター等を活用し、地域交流を実現できるようにする。
- ・「月1ボランティア」活動の実施
全教員に協力を要請し、校内および学校周辺で行うことができるボランティア活動を実施していき、周辺地域に理解が得られれば、周辺施設での施設外ボランティア（施設周囲の清掃や草取りなど）を実施させていただく。